

## JCI プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会 第4回幹事会議事録(案)

開催日 2007年10月1日(月) 10:00~12:00

場 所 JCI会議室

出席者 万木正弘、國府勝郎、北辻政文、森田秀明、久田 真、大塚修三(中田善久・代理)

記録者 月永洋一

### 会議資料

- 幹 4-0 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会 第4回幹事会次第
- 幹 4-1 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会 第3回幹事会議事録(案)
- 幹 4-2 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会 WG1(設計方法WG)活動・計画メモ(その2)
- 幹 4-2-1 2002年制定コンクリート標準示方書[施工編]15章工場製品
- 幹 4-2-2 コンクリート標準示方書 29章工場製品
- 幹 4-3 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会 WG4(リサイクル材等利用WG)第1回WG議事録、WG4(リサイクル材等利用WG)当面の活動および役割分担
- 幹 4-4 「プレキャストコンクリート製品の課題と展望」に関するシンポジウム会告
- 幹 4-5 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会議事録(案)
- 幹 4-6 JCI研究委員会活動報告書式

### 議事

#### 1. 委員長挨拶

万木委員長より、第4回幹事会開催にあたって挨拶があった。

#### 2. 審議事項

##### (1) 前回議事録の確認

北辻幹事より、資料4-1に基づき説明があり、次の2項目を含めて議事録を確認した。

- ・ 議事 3. 各WGの計画、進め方において、WG1の”先ず問題点の洗い出しを行なうこと”については、委員にアンケート調査を行ない、特に性能設計について問題点を抽出する。
- ・ 議事 4. シンポジウムの内容として、午前に國府顧問に講演をお願いするが、投稿論文の数をみて、数が少ないようであれば北辻幹事にリサイクルに関する講演をお願いする。

##### (2) 各WGからの報告

###### 1) WG1

久田幹事より、資料4-2に基づき、WG1の活動・計画について説明があり、各事項について次の意見があった。このほか、配布資料について4-2-1は土木学会の性能規定型、資料4-2-2は仕様規定型であるとの説明があった。

###### 1. 検討内容

- ・ (3)設計施工指針(マニュアル)の検討:骨子程度までとする。
- ・ 低コスト化、高性能化の提案および再生骨材の利用法の提案、スラグ・フライアッシュ等の利用法の提案:WG4と関連するので協議・連携する。

###### 2. 具体的な項目

- ・ (1)PCa製品の種類と特徴、委員会での対象の範囲:断面寸法による性能設計の適否な

どを含め、性能設計を行う上での問題点を抽出・整理するなど、今年度中に議論・集約し、次年度に形をつくる。

- ・(3)現行マニュアル類の内容と問題点：個々のマニュアル類の共通事項の統合を目標とし、要求性能については、設計耐用年数の考え方を整理する。
- ・(4)マニュアルへの反映事項：製造方法を除き、構造物として完成したときの要求性能としてとらえる。
- ・(5)欧米規格の内容整理：実状把握やどのような性能照査を行っているのかを調べ、欧米 40% 日本 13% という背景を明らかにする。調査は川上委員を中心にお願いする。

### 3. 次回以降のWGの進め方について

- ・(2)2 の内容に関する製品別（地域別）の整理：地域により使用材料・環境は異なり、求められる性能が異なることを念頭において整理する。
- ・(3)マニュアル骨子の整理：性能は、耐用年数、ひび割れ発生、さらに、製品として、あるいは接合部を含めた構造物としてなど、どのようにとらえるかが問題。構造設計と材料設計の二面からとらえる必要もあり、sub-WG で検討することも考える。構造設計については、断面厚によって限界状態設計法を適用できないものがあり、どのように考えるか検討する。

### 2) WG4

北辻幹事より、資料 4-3 に基づき、WG4 第 1 回議事録および当面の活動と役割分担について説明があった。文献調査では、新しく葺重勲氏（電中研）を通信委員として加えて活動すること、低品質骨材の調査では使用できる論理を明確にすること、混合セメントおよび特殊混和剤の利用については、笠井哲郎氏（東海大）および齊藤直氏（中国電力）を通信委員として加えて活動することの説明があった。

### 3) WG2

中田幹事代理として出席した大塚委員より、WG2 の活動について、アンケート項目を早めに決定して調査する予定であることが報告された。

### (3) シンポジウムの開催内容について

北辻幹事より、資料 4-4 に基づき標記について報告があった。会告では、副題として“性能設計とリサイクル”および論文の募集に“報告の募集”を加筆したことの説明があった。会場は、日本大学理工学部のホール（収容人数 300 名、御茶ノ水）を仮予約済みであること、参加者は 150 名～200 名程度、論文数は最大 20 編を目標とすることとした。

### (4) その他

万木委員長より、資料 4-6 に基づき、10 月 19 日開催予定の研究委員会へ提出する活動報告の書式について説明があった。

### 3. その他

北辻幹事より、週間ブロック通信紙から委員会の取材申込があったが、活動は緒についたばかりであることから今回の取材は断り、シンポジウム開催などを紹介したことなどの説明があった。

以上